

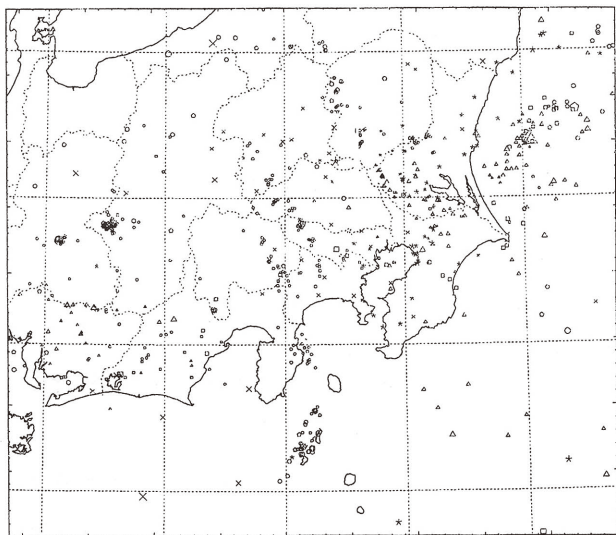
ることが今までに何回か指摘されてきた。また、地球温暖化など全地球規模の環境変化も、その程度は地域によって異なることも既に指摘されている。1993年の特異な天候は正に、地域規模の気候の変動に対する備えの重要性を暗示したものと云えよう。

本報告で使用したデータは、気象庁発行の刊行物及び気象庁海洋課、統計室から提供を受けた。記して謝意を表します。

12月の地震活動

マグニチュード (M) 4 以上の地震は全部で6個観測された。これらのうち1個は東海沖深さ382kmに、1個は新潟県南西部深さ194kmに発生した地震、2個は茨城県沖の浅い地震である。その他の地震は、岐阜県中部の地震 (10日14時09分、深さ5 km, M4.1)、群馬県南東部の地震 (31日15時31分、深さ79km, M4.8) である。

岐阜県中部の地震 (10日) の震源域では12月中に19個の微小地震が観測された。長野県西部の群発地震活動域では、12月中に79個の地震が観測された。12月中の最大地震は茨城県東方沖のM5.0の地震であった。



国際交流

1. 5～1. 22 井元政二郎 (地圏地球科学技術研究部地殻力学研究室長) 地震予知研究に関する資料収集と地震予知研究協力の推進のため

(ニュージーランド)

1. 8～1. 20 掘 貞喜 (地震予知研究センター主任研究官) 国際研究集会 (第27回IASPEI) 参加のため (ニュージーランド)

1. 8～1. 22 吉田 則夫 (地圏地球科学技術研究部主任研究官) 第27回IASPEI総会に参加し、講演及び討論を行うため (ニュージーランド)

1. 8～1. 22 藤原 広行 (防災総合研究部地震・火山防災研究室) 第27回IASPEI総会に参加し、「水平方向に不均質性を有する層構造弾性体中での表面波の計算法」と題する講演を行うため

(ニュージーランド)

1. 9～1. 22 浜田 和郎 (地圏地球科学技術研究部長) 1. 12～1. 22 岡田 義光 (地震予知研究センター長) 石田 瑞穂 (地圏地球科学技術研究部地震活動研究室長) 第27回IASPEI (国際地震学・地球内部物理学協会) 総会に参加のため

(ニュージーランド)

1. 9～1. 22 小村健太郎 (地圏地球科学技術研究部地球化学研究室) 第27回IASPEI総会に参加し、「地震波異性地域内の足尾2 km井における巨視的亀裂と地殻応力の原位置測定」と題する論文発表を行うため (ニュージーランド)

1. 11～1. 20 竹田 厚 (総括地球科学技術研究官) リモートセンシング技術の海洋沿岸調査への応用のための技術指導のため (インドネシア)

1. 13～2. 1 大倉 博 (先端解析技術研究部隔測解析研究室長) 共同研究に関する討論と情報及び研究対象地域の地上調査を行うため

(タイ王国)

主な来訪者

12月1日(水) 日本リモートセンシング学会見学会
農業工学研究所土木研修生

12月15日(水) 山形大学工学部梅宮教授

12月16日(木) 会計検査院第二局厚生第一課

萩原副長ほか

12月22日(水) 茨城県工業試験所

編集兼 防災科学技術研究所
発行 〒305 茨城県つくば市天王台3-1
TEL (0298) 51-1611 (代)

(再生紙使用)